

令和7年度

柏市学力・学習状況調査
結果報告

令和8年3月

柏市教育委員会

目次

1	調査の概要	P1
	(1) 調査目的		
	(2) 調査対象・調査教科等		
	(3) 調査内容		
2	調査結果の概要	P2
	(1) 全体概要		
	(2) 経年変化		
	(3) 平均正答率		
	(4) 達成率		
	(5) 中央値		
3	教科別調査結果概要【小学校】	P4
	(1) 国語		
	(2) 算数		
4	「4つのC」	P16
	(1) 質問項目一覧		
	(2) 「4つのC」概況		
	(3) 「4つのC」活用		

1 調査の概要

(1) 調査目的

児童の学力・学習状況及び生徒の学習状況を把握し、各学校における学習指導や生徒指導等の改善並びに教育委員会の施策・事業の改善等に資する。

(2) 調査対象・調査教科等

対象学年	人数	調査教科等
小学校	1年	3680人
	2年	3711人
	3年	3631人
	4年	3793人
	5年	3762人
	6年	3562人
中学校	1年	2755人
	2年	2760人
	3年	2890人

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査

(ア) 調査日

令和7年11月20日(木)～令和7年12月4日(木)の期間中に各学校が設定した日

(イ) 調査問題構成

- ・当該学年の10月末までの履修範囲
- ・学習指導要領に基づいた観点・領域などから学力を総合的に測定できる内容
- ・記述式を含む内容
- ・基礎及び応用の両面からの出題
- ・思考・判断・表現を測る問題については主に論述式での出題
- ・教科意識調査

イ 生活・学習意識調査

(ア) 調査日

柏市学力調査の実施日と同日。 ※中学生は、実施期間内の任意の日時に設定する。

(イ) 調査方法

一人一台端末を使用して、Google Formsへ回答する(CBT方式)

(ウ) 調査内容

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣に関するアンケート調査
- ・小1から中3まで、ほぼ同一設問で調査
- ・調査項目のうち18項目は、「4つのC」を測る指標として数値化

(エ) 「4つのC」について

柏市教育委員会では、柏市第五次総合計画後期基本計画及び第2次柏市教育振興計画を受け、柏市の子供たちに付けたい力を「4つのC」として示している。

本調査において、この「4つのC」から見取れる児童生徒の現状を毎年度把握し、目指す姿に向けて各種取組を進めている。

① 見通す力 (Concept)	② 挑戦する力 (Challenge)
③ 関わり合う力 (Communication)	④ 自律する力 (Control)

2 調査結果の概要

(1) 全体概要（全国との差）

	国語	教科総合	基礎	応用
小	1年	▽	▽	▽
	2年	≒	≒	≒
	3年	≒	▽	≒
	4年	≒	≒	≒
	5年	≒	≒	≒
	6年	≒	≒	▽

	算数	教科総合	基礎	応用
小	1年	▽	≒	▼
	2年	≒	≒	≒
	3年	▽	▽	▼
	4年	≒	≒	▽
	5年	≒	≒	≒
	6年	≒	≒	≒

評価基準

◎上回る	4以上		
○やや上回る	2.1	～	3.9
≒ほぼ同等	-2	～	2
▽やや下回る	-2	～	-3.9
▼下回る	-4以下		

(2) 経年変化

柏市の偏差値（全国）推移

小1	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	48.4	49.4	49.4	47.9
算数	47.5	47.8	47.8	46.0

小4	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	50.4	50.4	49.9	49.1
算数	48.8	48.7	48.4	47.9

小2	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	50.0	49.7	49.7	49.1
算数	49.1	49.1	49.0	47.8

小5	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	50.5	49.5	49.5	48.5
算数	50.0	49.6	49.2	49.0

小3	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	49.0	49.3	49.3	48.3
算数	48.5	48.3	48.8	47.9

小6	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	49.4	49.8	50.6	49.0
算数	49.1	50	49.7	48.8

(3) 平均正答率 (%)

		国語		算数	
			柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	75.2	-2.5	84.0	-3.0
	2年	86.2	-0.2	73.2	-1.5
	3年	63.3	-2.0	68.2	-3.2
	4年	71.0	1.1	65.9	-2.0
	5年	67.2	0.9	66.6	0.3
	6年	69.1	-0.8	62.4	-1.2

(4) 達成率 (%)

達成率とは、その集団において、目標値（目標正答率）に達している児童の人数の割合のこと。

目標値とは、「おおむね満足」と言える水準として設定した、目標とする正答率 (%) である。

		国語		算数	
			柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	73.1	-4.7	80.6	-4.3
	2年	79.2	-0.5	73.1	-2.7
	3年	71.9	-3.0	67.9	-5.0
	4年	72.9	2.3	69.3	-3.4
	5年	80.3	2.0	76.4	0.5
	6年	74.5	-1.2	69.3	-2.4

(5) 中央値 (%)

中央値とは、その集団における正答率を大きい順に並べたとき、全体の中央に来る値

(つまり、真ん中の順位にあたる児童の正答率) のこと

		国語		算数	
			柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	81.0	0.0	87.0	-4.3
	2年	90.5	0.0	79.2	0.0
	3年	66.7	0.0	72.0	-4.0
	4年	72.7	0.0	69.0	-3.4
	5年	68.0	0.0	67.9	0.0
	6年	70.4	0.0	65.5	0.0

3 教科別調査結果概要 【小学校】

(1) 国語 平均正答率 (%)

1年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		75.2	77.7	-2.5	▽
基礎		80.0	82.3	-2.3	▽
応用		46.4	50.3	-3.9	▽
出題形式	選択式	75.4	78.0	-2.6	▽
	短答式	89.1	90.8	-1.7	≒
	記述式	46.4	50.3	-3.9	▽
観点	知識・技能	90.5	92.3	-1.8	≒
	思考・判断・表現	61.3	64.5	-3.2	▽
領域	言葉・情報・言語文化	90.5	92.3	-1.8	≒
	話すこと・聞くこと	71.9	76.9	-5.0	▼
	書くこと	46.4	50.3	-3.9	▽
	読むこと	57.3	59.8	-2.5	▽

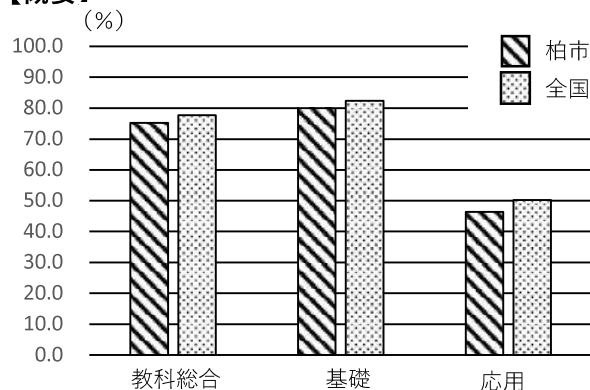
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

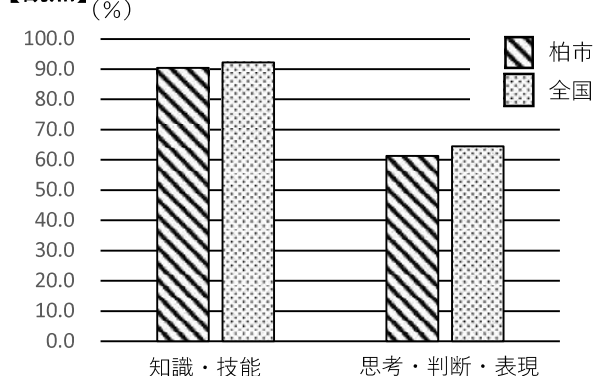
※1 評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

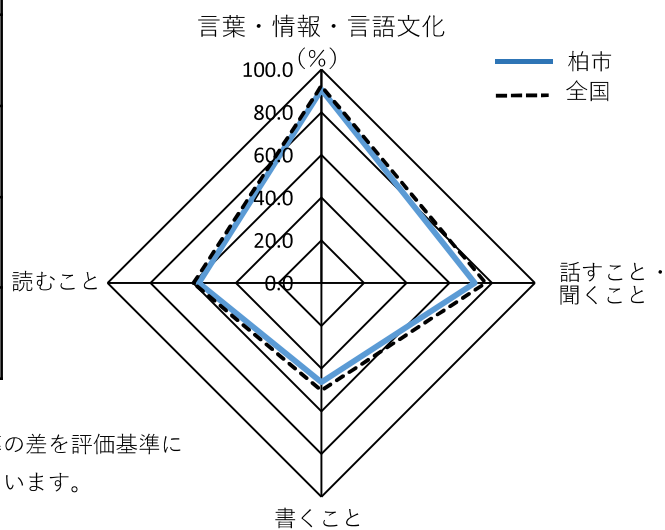
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・教科総合項目は、全国平均正答率よりやや下回っている。
- ・領域「言葉・情報・言語文化」の中の、ひらがなの学習に関する設問の正答率が高く、定着が見られる。
- ・応用項目は、出題形式がすべて文章から読み取って記述する設問であり、無解答率が高かった。本文のどの部分を手掛かりにすればよいか分からずに書き始めることができない児童が一定数いたと推察される。

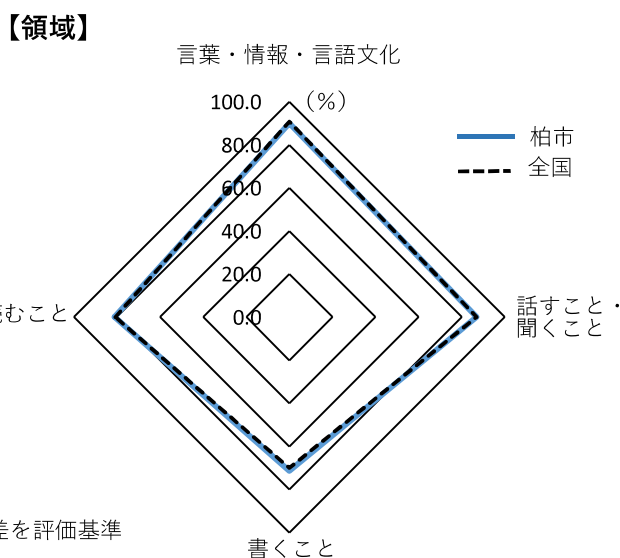
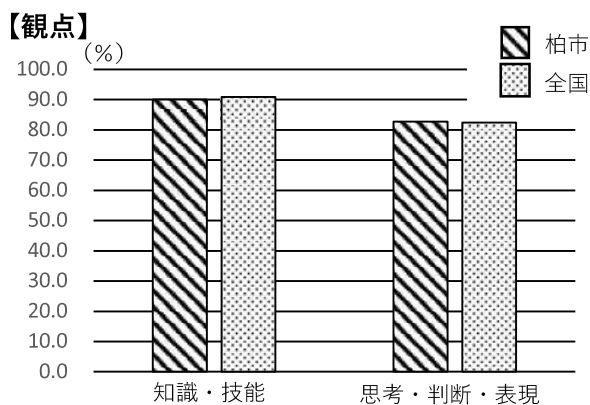
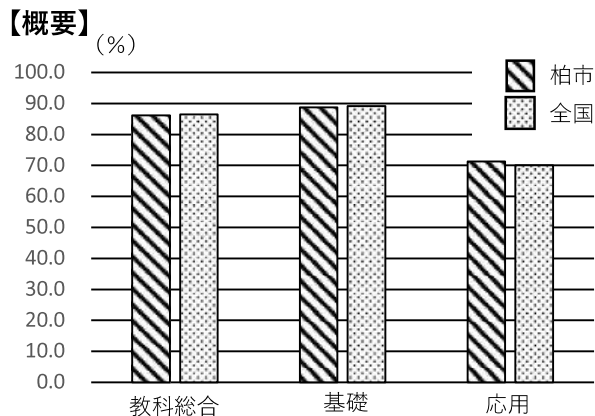
音読や読み聞かせをとおして、内容の大体を捉えたり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりする活動を重視したい。

- ・領域「話すこと・聞くこと」では、話の細部まで聞き取ることにつまずきが見られた。**聞いた内容を短く言い返す活動や内容を絵やメモで整理するなど、自分の中で相手の話を整理する経験を積みながら、互いの話に関心をもち相手の発言を受けてつなぐ力を育てていく**必要がある。

2年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価	
教科総合		86.2	86.4	-0.2	≒	
基礎		88.7	89.1	-0.4	≒	
応用		71.3	70.0	1.3	≒	
平均正答率 (%)	出題形式	選択式	87.1	87.1	0.0	≒
		短答式	90.0	90.8	-0.8	≒
		記述式	71.3	70.0	1.3	≒
観点	知識・技能	90.0	90.8	-0.8	≒	
	思考・判断・表現	82.8	82.4	0.4	≒	
領域	言葉・情報・言語文化	90.0	90.8	-0.8	≒	
	話すこと・聞くこと	86.9	86.9	0.0	≒	
	書くこと	71.3	70.0	1.3	≒	
	読むこと	81.2	80.8	0.4	≒	

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を評価基準
に



【考察】

- ・教科総合項目は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・領域「言葉・情報・言語文化」は、漢字の読み・書きや「は・を・へ」の助詞を書く設問の平均正答率が高く、ある程度の定着が見られるが、句読点を打つ設問にやや課題が見られる。日記や手紙を書くなどの経験を積みながら、時間をかけて句読点を使うことができるようになる必要がある。
- ・応用項目は、出題形式が文章から読み取ったり、読み取った内容から想像したりしたことを記述する設問であり、全国に比べると平均正答率が1.3ポイント高い。しかし、無解答率も高く、正答率が高い児童と低い児童との差が見られるため、簡単な報告文や物語文をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動をとおして、同じような言葉でも意味の違いがあることを確かめながら、言葉がもつよさを感じるようになることが大切である。

3年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		63.3	65.3	-2.0	≒
基礎		67.4	69.5	-2.1	▽
応用		48.9	50.7	-1.8	≒
出題形式	選択式	63.8	65.9	-2.1	▽
	短答式	76.1	77.9	-1.8	≒
	記述式	40.5	42.5	-2.0	≒
観点	知識・技能	68.5	71.4	-2.9	▽
	思考・判断・表現	60.0	61.5	-1.5	≒
領域	言葉・情報・言語文化	68.5	71.4	-2.9	▽
	話すこと・聞くこと	86.9	87.5	-0.6	≒
	書くこと	40.6	43.5	-2.9	▽
	読むこと	54.2	55.1	-0.9	≒

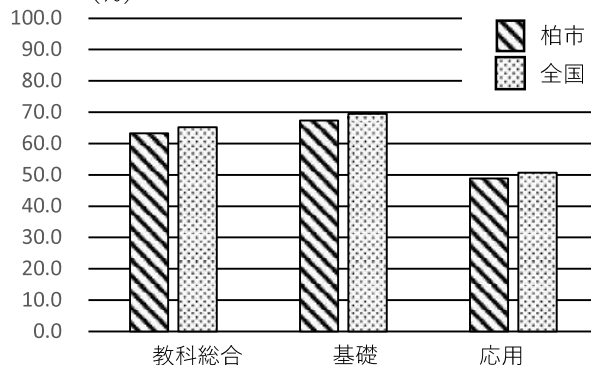
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

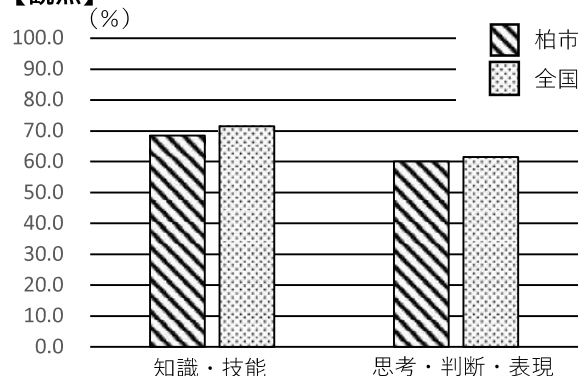
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

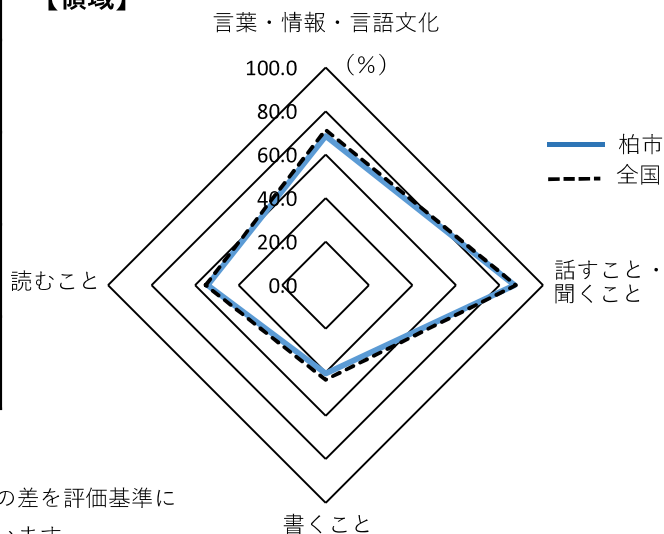
【概要】 (%)



【観点】 (%)



【領域】



【考察】

- ・教科総合項目は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎の「国語辞典でいちばん先に出てくるものを選ぶ」設問では、正答率が高い児童と低い児童の差が大きく、五十音順の理解や長音の置き換えでつまづきが見られた。辞書を使う価値を生かし、**日頃から児童が辞書を手に取り、言葉を調べる経験を積めるような環境を整える**ことが重要である。
- ・領域「話すこと・聞くこと」では、全国平均正答率とほぼ同等であり、話し手が伝えたいことの中心を捉えながら聞く力は概ね定着していると考えられる。
- ・領域「書くこと」では、文章を読んで理解した内容を基に、条件を踏まえて書くことに課題が見られた。相手や目的を意識して**必要な情報を選択して伝え合ったり文章化したり**、また**「どのように選択したのか」といった学習過程を振り返る活動を充実させたりしながら、言葉がもつ価値を認識できるようにしていく**必要がある。

4年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		71.0	69.9	1.1	≒
基礎		76.8	75.6	1.2	≒
応用		44.7	44.2	0.5	≒
出題形式	選択式	74.2	72.9	1.3	≒
	短答式	83.9	83.4	0.5	≒
	記述式	34.4	33.7	0.7	≒
観点	知識・技能	82.2	81.3	0.9	≒
	思考・判断・表現	63.3	62.0	1.3	≒
領域	言葉・情報・言語文化	82.2	81.3	0.9	≒
	話すこと・聞くこと	85.7	85.7	0.0	≒
	書くこと	39.7	38.8	0.9	≒
	読むこと	51.6	48.9	2.7	○

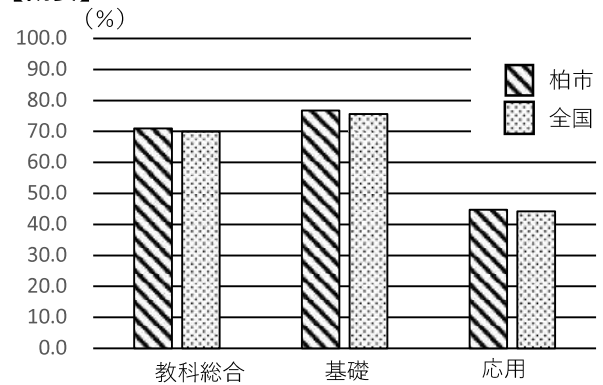
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

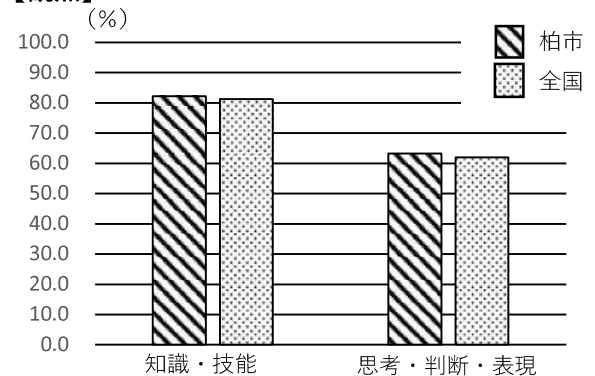
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

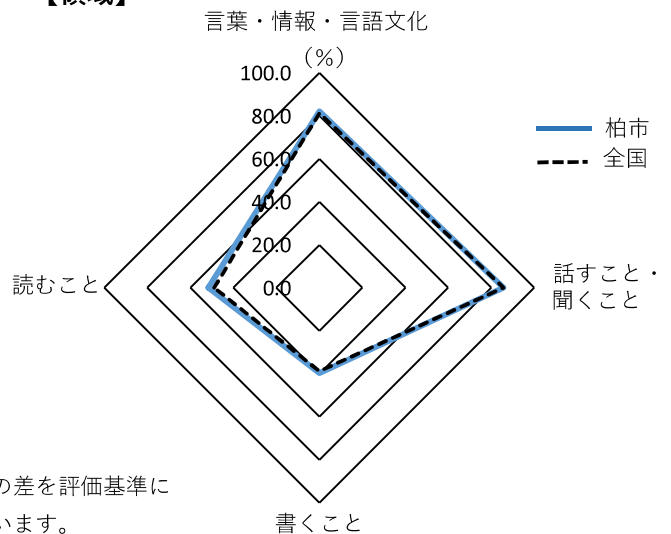
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

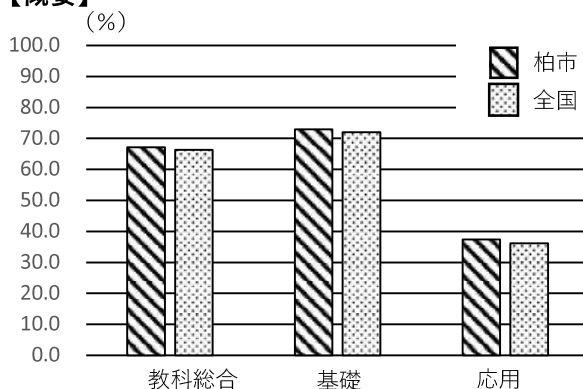
- 教科総合項目は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- 領域「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」は、全国とほぼ同等で平均正答率が高く、ある程度の定着が見られる。しかし、「漢字辞典で漢字を調べるときの使い方を選ぶ」設問については全国的に課題が見られるため、**日頃から漢字辞典を使って調べる経験を積みながら、我が国の言語文化に親しんだり理解したりできるようにする**ことが大切である。
- 領域「書くこと」「読むこと」は、平均正答率が全国と同等もしくはやや上回っている。2つの領域に共通する課題として、「段落相互の関係に着目すること」が挙げられる。**考えとそれを支える理由や事例との関係などに着目しながら説明文を段落ごとに読んだり、内容のまとめりで段落をつくって調べたことをまとめたりする活動をとおして伝え合う力を高めていく**必要がある。

5年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		67.2	66.3	0.9	≒
基礎		72.9	72.0	0.9	≒
応用		37.4	36.1	1.3	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	72.2	71.8	0.4	≒
	短答式	75.8	73.3	2.5	○
	記述式	23.2	22.6	0.6	≒
観点	知識・技能	78.9	77.4	1.5	≒
	思考・判断・表現	58.0	57.5	0.5	≒
領域	言葉・情報・言語文化	78.9	77.4	1.5	≒
	話すこと・聞くこと	85.1	83.3	1.8	≒
	書くこと	31.4	32.4	-1.0	≒
	読むこと	45.8	44.5	1.3	≒

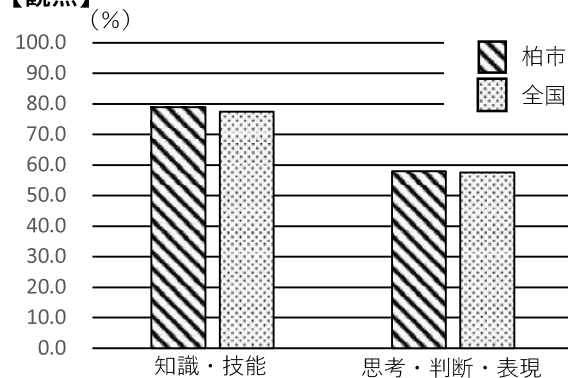
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を評価基準
に

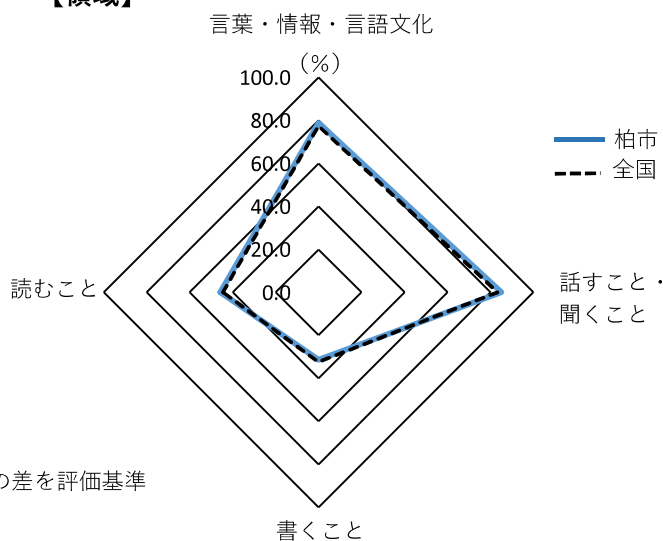
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- 基礎項目では全国平均正答率とほぼ同等である。特に、漢字の読み書きについての短答式問題は、どの設問も全国の正答率より上回っており、定着もある程度見られている。
- 領域「話すこと・聞くこと」では、話し手の内容を捉えながら聞くことは概ね定着しているが、聞き取った内容を踏まえてどの質問が適切かを判断する応用の問題で、正答率が高い児童と低い児童との差が見られた。**聞いた内容をメモにまとめる活動や、発言に応じて質問を考える対話活動などを充実させながら、話し手の目的や自分が聞きたい意図を一人一人が意識できるようにしていく**ことが大切である。
- 領域「書くこと」では、文章全体の構成や書き表し方などを工夫することについて全国的に課題が見られた。**アンケートなど集めた情報を関連付けながら伝えたいことを明確にする活動経験を積みながら、推敲する力を育てていく**ことを重視したい。

6年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		69.1	69.9	-0.8	≒
基礎		70.9	71.5	-0.6	≒
応用		58.5	60.7	-2.2	▽
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	71.4	71.8	-0.4	≒
	短答式	70.7	71.6	-0.9	≒
	記述式	51.8	55.2	-3.4	▽
観点	知識・技能	65.2	67.3	-2.1	▽
	思考・判断・表現	71.7	71.7	0.0	≒
領域	言葉・情報・言語文化	65.2	67.3	-2.1	▽
	話すこと・聞くこと	87.7	87.4	0.3	≒
	書くこと	54.0	55.4	-1.4	≒
	読むこと	69.2	69.2	0.0	≒

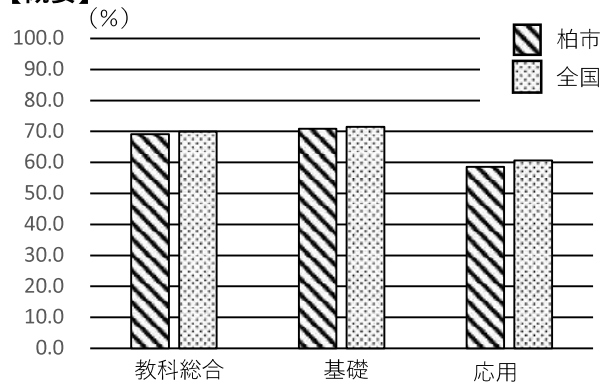
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

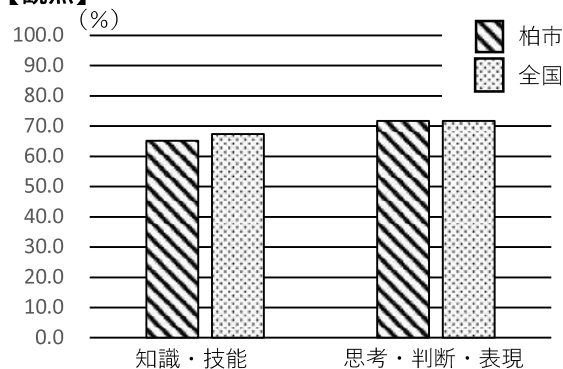
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

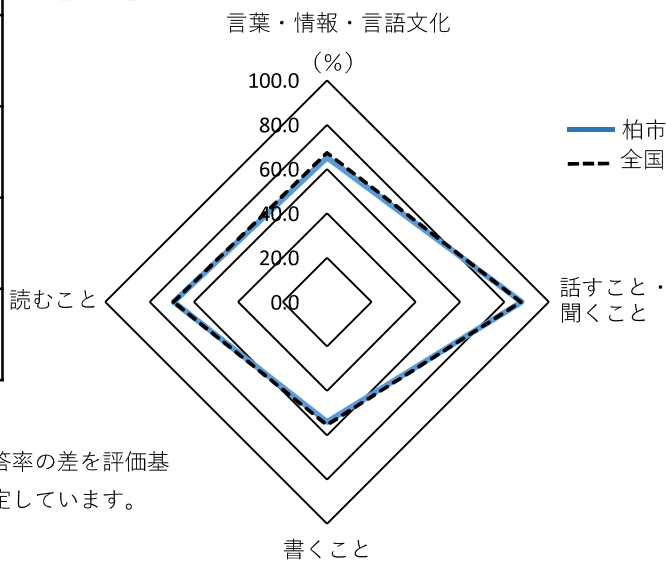
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- 領域「話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率とほぼ同等であり、話し手が伝えたいことの内容を捉えながら聞く力は概ね定着していると考えられる。
- 領域「言葉・情報・言語文化」では、「和語・漢語・外来語の言葉を選ぶ」「述語に対応する主語を選ぶ」といった設問につまずきが見られた。**文を構成する言葉（和語・漢語・外来語）に関心をもったり、文の構成（主語・述語・修飾語など）について理解を深めたりすることをとおして語彙を豊かにしていく**ことを大切にしたい。
- 応用項目では、記述式問題が全国平均正答率よりやや下回った。**文章や図、話し合いを基にして書いたり、その学習過程を振り返ったりする活動を充実させながら、自分の考えをはっきりと正確に伝える力を高めていく**必要がある。

(2) 算数 平均正答率 (%)

1年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※	
教科総合		84	87	-3.0	▽	
基礎		89.7	91.5	-1.8	≒	
応用		63.3	70.6	-7.3	▼	
平均正答率 (%)	出題形式	選択式	88.5	90.8	-2.3	▽
		短答式	90.4	92	-1.6	≒
		記述式	63.3	70.6	-7.3	▼
観点	知識・技能	89.7	91.5	-1.8	≒	
	思考・判断・表現	63.3	70.6	-7.3	▼	
領域	数と計算	82	85.5	-3.5	▽	
	測定	88.6	90.2	-1.6	≒	
	データの活用	90.4	92.2	-1.8	≒	

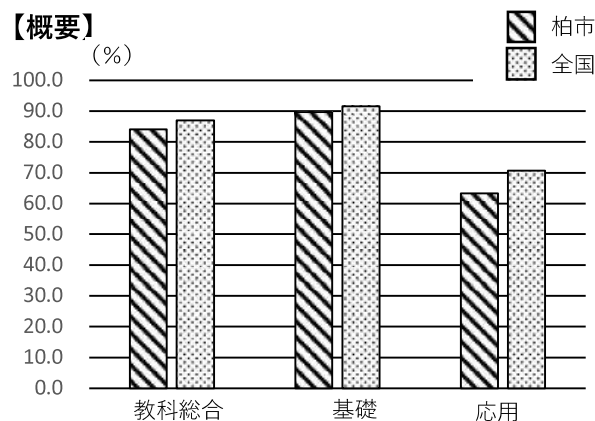
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

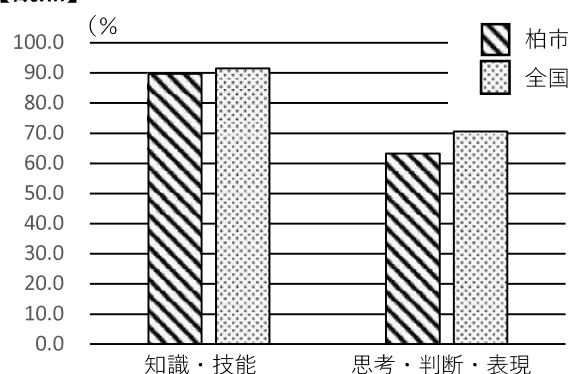
※1 評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

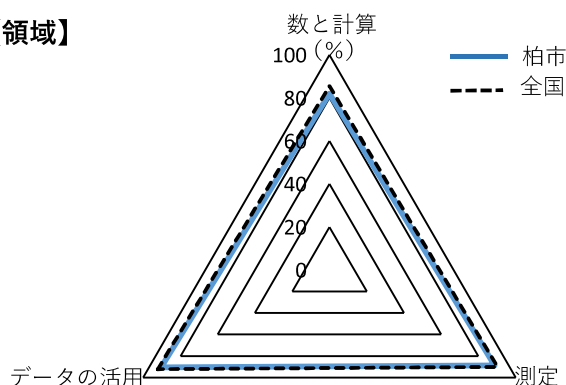
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は全国平均正答率をやや下回っている。
- 基礎項目では、「1, 2位数+1位数」「1位数-1位数」の計算や絵グラフの読み取りに関する設問の正答率が高く、定着が見られる。
- 領域「数と計算」では、数の大きさや順序に関する設問の正答率が全国平均より下回っている。**数のまとまりに着目し、具体物や半具体物、図を関連付けて考える経験を積み重ねていく**ことが大切である。
- 応用項目は、全て加法・減法の記述式問題である。問題文から立式し答えを求める設問は概ねできているが、絵を見て指定された式についての問題を作る設問の正答率が低かった。正答率の二極化も見られるため、**問題文から解いたり問題をつくったりする活動をとおして、集団指導において計算の意味の理解を図りつつ、個に応じた指導・支援を行う**必要がある。

2年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※	
教科総合		73.2	74.7	-1.5	≒	
基礎		78.7	80.4	-1.7	≒	
応用		52.6	52.9	-0.3	≒	
平均正答率 (%)	出題形式	選択式	70.5	73.2	-2.7	▽
		短答式	85.4	86.2	-0.8	≒
		記述式	46.0	46.5	-0.5	≒
観点	知識・技能	78.7	80.4	-1.7	≒	
	思考・判断・表現	52.6	52.9	-0.3	≒	
領域	数と計算	68.6	69.8	-1.2	≒	
	図形	77.9	81.0	-3.1	▽	
	測定	72.9	74.1	-1.2	≒	
	データの活用	89.5	90.7	-1.2	≒	

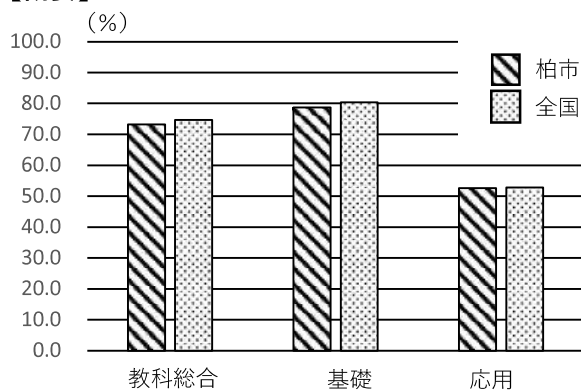
評価基準

⊕ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

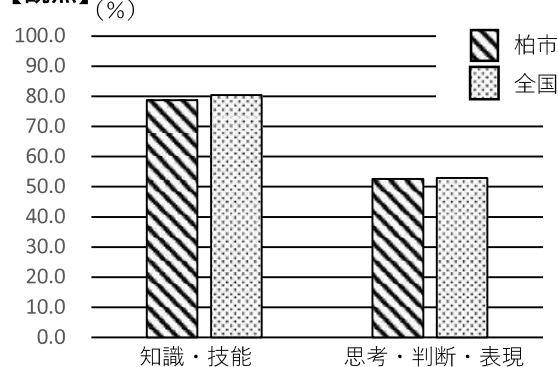
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

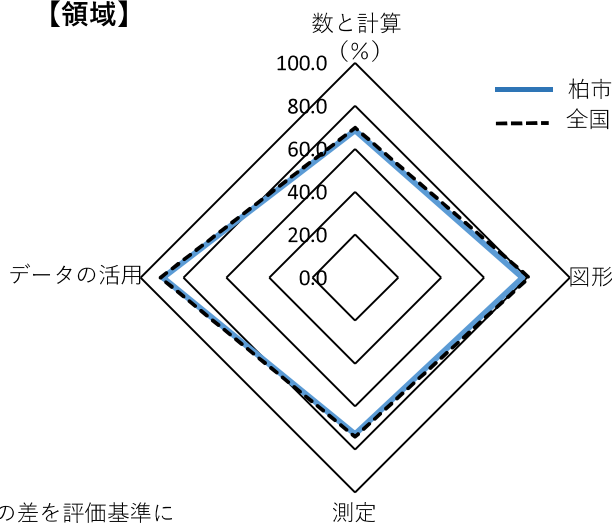
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は全国平均正答率とほぼ同等である。
- 基礎項目では、点をつないで同じ形を描いたりグラフから読み取ったりする設問の正答率が高く、定着が見られる。
- 領域「図形」では、色板を使った形づくりの設問が選択式で2問出題されているが、どちらも正答率が全国平均より下回っている。**図形に親しみながら具体物を使って形をつくったり分解したりする操作活動をとって、図形の構成について考える力を育てていく**必要がある。
- 領域「数と計算」では、数の大小を「 $>$ 、 $<$ (不等号)」で答える設問の正答率が全国平均と比べて大きく下回っている。**「 $>$ 、 $<$ (不等号) の口が開いている方が大きい数、口が閉じている方が小さい数」と、アヒルの口などに例えて示したり、「 $=$ (等号)」も数の大小を表す記号であることへの理解を促したりしながら、数の大きさに興味をもち記号を用いて表現し伝え合う経験を積み重ねたい。**

3年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価	
教科総合		68.2	71.4	-3.2	▽	
基礎		75.6	77.9	-2.3	▽	
応用		44.8	50.8	-6	▼	
平均正答率 (%)	出題形式	選択式	71	72.9	-1.9	≒
		短答式	78.3	80.8	-2.5	▽
		記述式	54.9	60.3	-5.4	▼
観点	知識・技能	72.8	76.1	-3.3	▽	
	思考・判断・表現	60	63.1	-3.1	▽	
領域	数と計算	76.3	79.3	-3	▽	
	図形	65.6	71.6	-6	▼	
	測定	55.1	56.6	-1.5	≒	

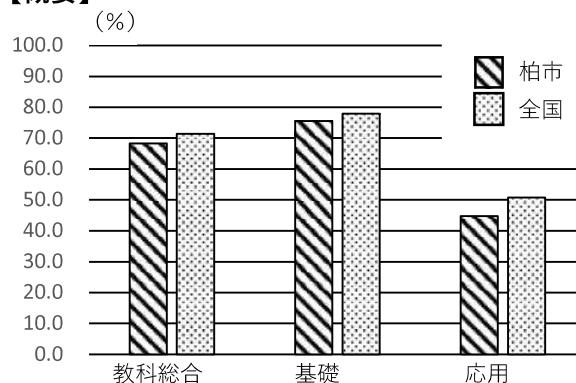
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

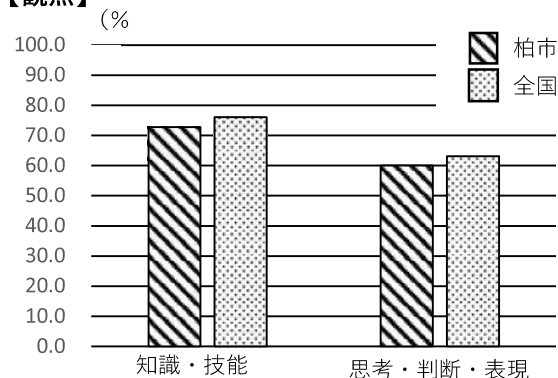
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

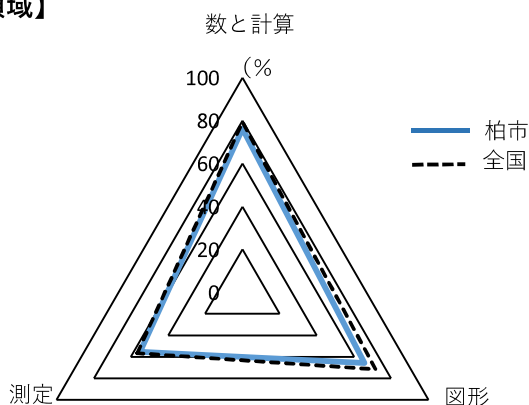
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は全国平均正答率をやや下回っている。
- 基礎項目では、「1位数×0」の計算や「長方形を選ぶ」設問の正答率が高く、定着が見られる。
- 領域「測定」は、「量の単位」や「時刻と時間」に関する選択式の設問がほとんどであり、全国平均よりも高い正答率だった。しかし、全国的に定着が弱いところも見受けられる。引き続き、**時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について日常生活と結び付けて考える経験を積み重ねていきたい。**
- 応用項目では、特に、条件に合う直角三角形を作図するという記述式の設問において、全国平均正答率を大きく下回っており、無解答率も高かった。**作図などをとおして与えられた条件を具体的に捉え、図形の性質の理解について次第に理解できるよう、根気強く取り組む**必要がある。

4年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価	
教科総合		65.9	67.9	-2.0	≒	
基礎		68.1	70.0	-1.9	≒	
応用		57.4	59.7	-2.3	▽	
平均 正答率 (%)	出題 形式	選択式	68.3	69.0	-0.7	≒
		短答式	66.6	70.2	-3.6	▽
		記述式	51.5	53.9	-2.4	▽
観点	知識・技能	68.5	70.6	-2.1	▽	
	思考・判断・表現	57.6	59.5	-1.9	≒	
領域	数と計算	65.4	68.1	-2.7	▽	
	図形	62.5	64.1	-1.6	≒	
	測定	58.7	61.3	-2.6	▽	
	データの活用	81.9	82.6	-0.7	≒	

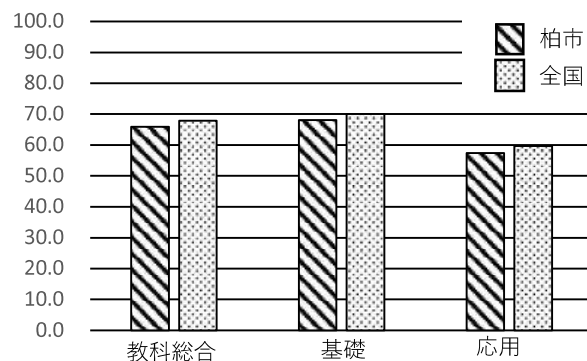
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

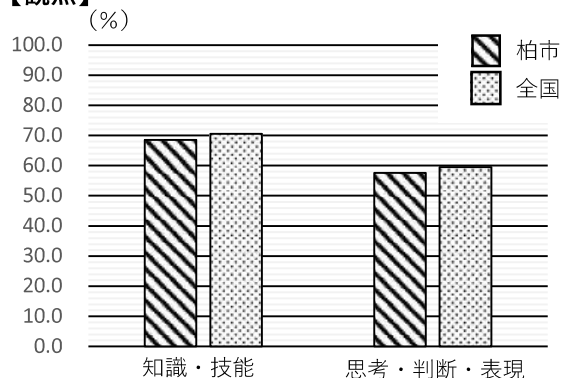
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

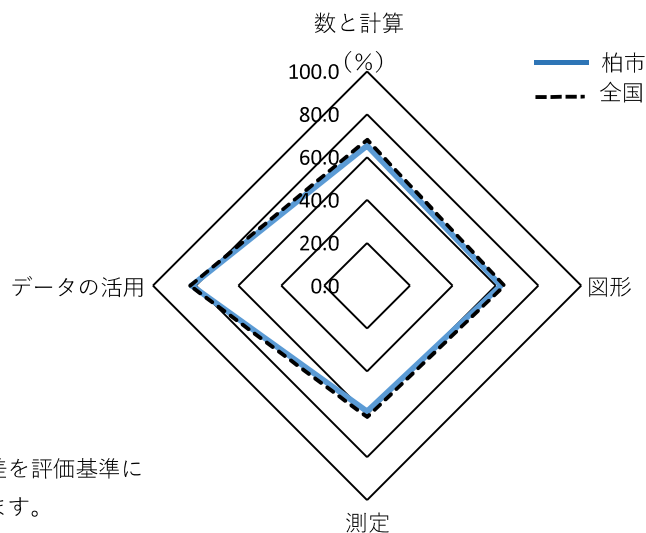
【概要】 (%)



【観点】 (%)



【領域】



【考察】

- 教科総合項目は全国平均正答率とほぼ同等である。
- 基礎項目は、折れ線グラフや棒グラフの読み取りに関する設問の正答率が高く、定着が見られる。
- 領域「数と計算」では、「数の大きさを順に並べる」設問の正答率が全国平均よりやや上回っている。一方で、「2, 3位数×2位数」や「3位数÷1位数」の計算については正答率が全国平均より下回っており、正答率が高い児童と低い児童の差も大きく見られ、特にわり算の計算の無解答率が高い。個々の実態に応じた指導・支援を行い、基礎的な計算力を高めていく必要がある。
- 応用項目は、二等辺三角形の作図問題が全国平均正答率より下回っている。図形の性質を理解し、実際に図形を作図する経験を重ねながら、図形を描いたり確かめたりする活動を重視したい。また、図形のもつ美しさにも関心をもたせるように配慮し、数学のよさを感じることができるような声かけを合わせて行うことが重要である。

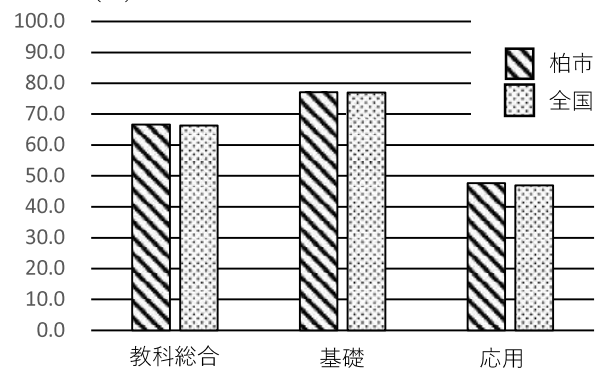
5年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価	
教科総合		66.6	66.3	0.3	≒	
基礎		77.1	77.0	0.1	≒	
応用		47.7	46.9	0.8	≒	
平均 正答率 (%)	出題 形式	選択式	75.1	74.5	0.6	≒
		短答式	72.4	72.9	-0.5	≒
		記述式	33.8	32.2	1.6	≒
観点	知識・技能	76.7	76.9	-0.2	≒	
	思考・判断・表現	45.2	43.8	1.4	≒	
領域	数と計算	62.4	61.6	0.8	≒	
	図形	69.2	68.7	0.5	≒	
	変化と関係	82.4	83.6	-1.2	≒	
	データの活用	77.4	80.2	-2.8	▽	

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
△ 下回る	- 4.0以下

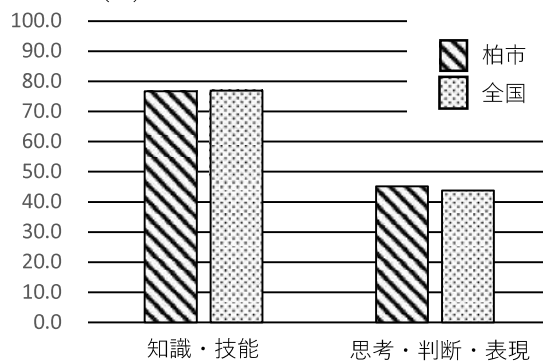
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

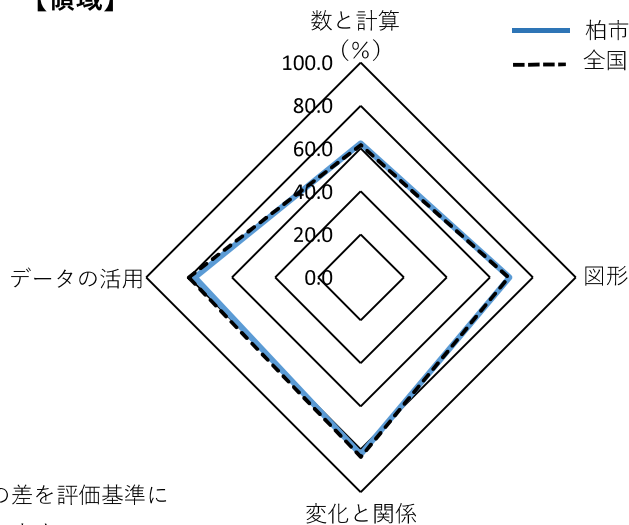
【概要】(%)



【観点】(%)



【領域】



【考察】

- ・教科総合項目は全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎項目は、合同な三角形を選んだり、規則性を見つけて指定された基石の数を求めたりする設問の正答率が高く、定着が見られる。
- ・領域「数と計算」では、**余りのある「小数÷小数」の計算について**の設問では全国平均正答率をやや下回っており、正答率の二極化が顕著である。一方、余りのない「小数÷小数」の設問では全国平均正答率とほぼ同等で高いため、全体指導で**余りの大きさについての理解を図りつつ、個に応じた指導・支援を行う**必要がある。
- ・領域「データの活用」は、**二次元表のデータについて**数値から指定された部分の数値を読み取ったり求めたりする設問であり、全国平均正答率を下回っている。**表の見方について確認しながら、二つの観点から分類整理する表を用いて問題解決する経験を積み重ねていく**ことが重要である。

6年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価	
教科総合		62.4	63.6	-1.2	≒	
基礎		67.0	68.5	-1.5	≒	
応用		50.5	50.8	-0.3	≒	
平均 正 答 率 (%)	出 題 形 式	選択式	66.3	66.2	0.1	≒
		短答式	63.7	66.3	-2.6	▽
		記述式	40.1	40.9	-0.8	≒
観 点	知識・技能	68.3	69.9	-1.6	≒	
	思考・判断・表現	47.1	47.1	0.0	≒	
領 域	数と計算	70.0	72.6	-2.6	▽	
	図形	53.5	54.4	-0.9	≒	
	変化と関係	58.3	58.3	0.0	≒	
	データの活用	77.5	78.7	-1.2	≒	

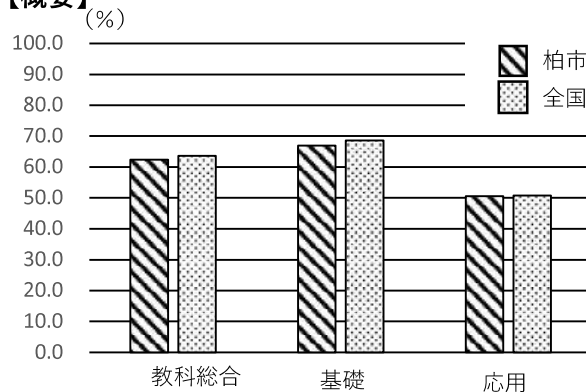
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

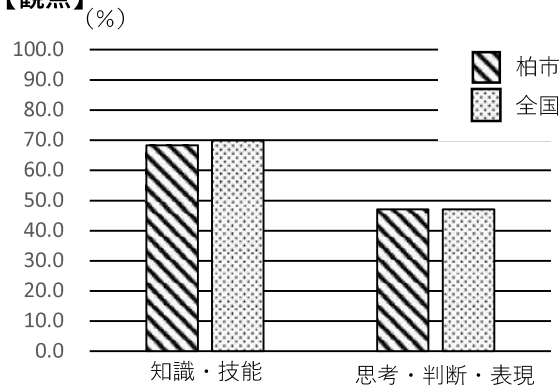
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

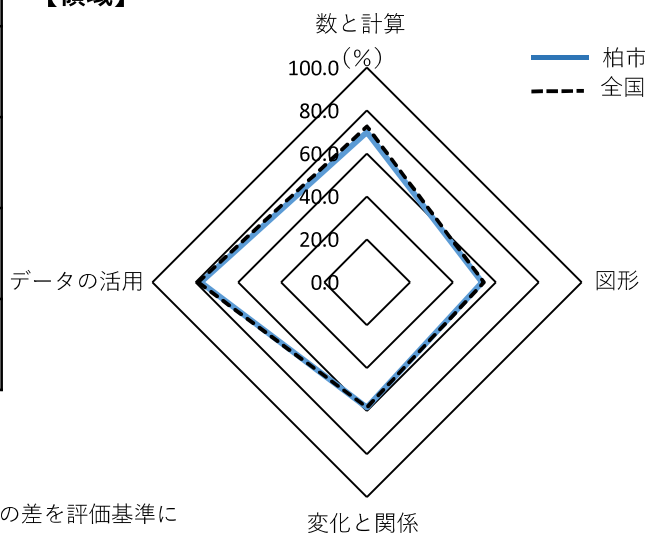
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・教科総合項目は全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎項目では、「円グラフから該当件数の割合を求める」や「円の面積を求める式を選ぶ」設問の正答率が高く、定着が見られる。
- ・領域「数と計算」では分数の計算が短答式で6問出題されているが、いずれも正答率が全国平均より下回っている。特に、前学年で学習した「**異分母分数の加減計算**」の抜け落ちが見られ、正答率の二極化も見られる。「**分数×分数**」「**分数÷分数**」の計算を含め、**個々の実態に応じて復習を行い、確実な定着を図る**ことが大切である。
- ・応用項目は、これまでの図形学習を日常で活かす場面を想定した設問であり、全国的に課題が見られた。日頃から「**解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、日常の課題を論理的に少しでも解こうとする**」など、**粘り強く考える経験を積み重ねていきたい。**

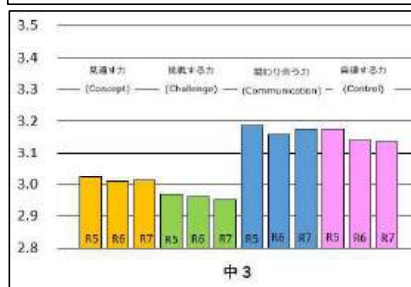
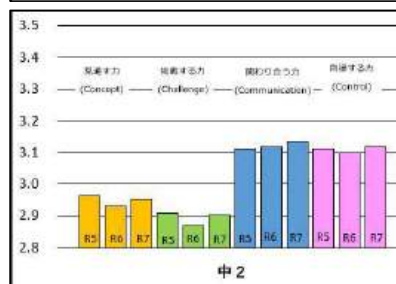
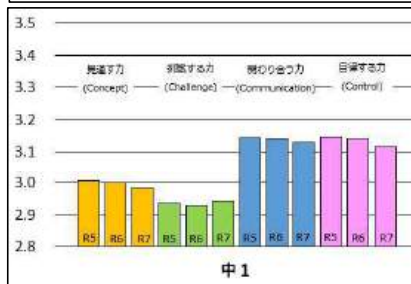
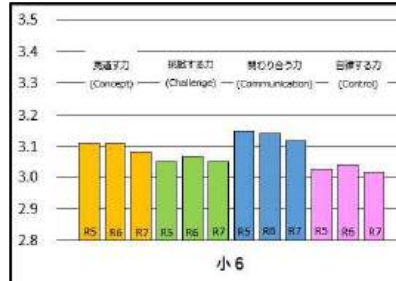
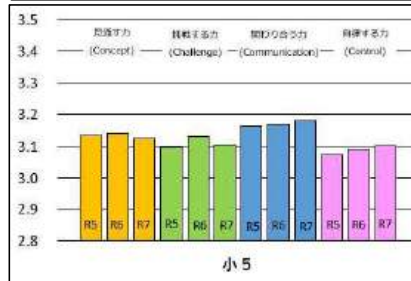
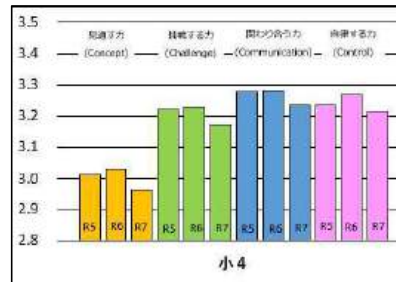
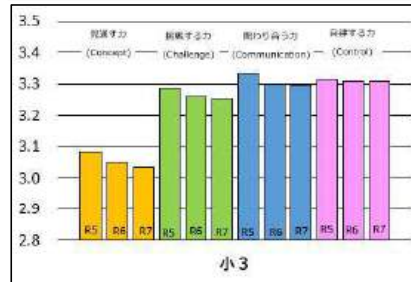
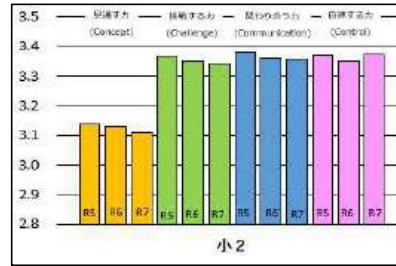
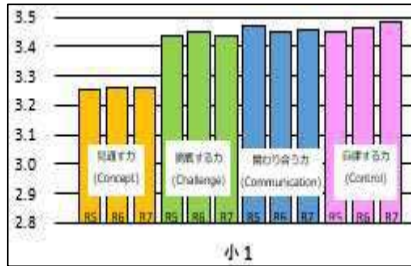
4 「4つのC」

(1) 質問項目一覧

見出し	質問文			
	小学校1・2年生用	小学校3・4年生用	小学校5・6年生用	中学生用
見通す力(Concept)				
夢・目標	しょうらいのゆめはありますか。	しょうらいのゆめはありますか。	しょう来のゆめや目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。
計画	しゅくだいやべんきょうを、やるじかんをきめてやっていますか。	しゅくだいやべんきょうを、やる時間をきめてやっていますか。	ものごとに取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。
振り返り	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところがいえますか。	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところがいえますか。	じゅ業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。	授業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。
分かる努力	わからないことがあったとき、ひとにきいたり、じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあったとき、人に聞いたり、自分でしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。
改善	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	ものごとに取り組んだ時、どうすればもっと良くできるかかんがえていますか。	物事に取り組んだ時、どうすればもっと良くできるかかんがえていますか。
挑戦する力(Challenge)				
目標への努力	そのゆめにむかってがんばっていますか。	そのゆめにむかってがんばっていますか。	しょう来の夢や目標に近づくために努力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努力していますか。
粘り強さ	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかんがえていますか。	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法をかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法をかんがえていますか。
挑戦	むずかしいとおもうことでもちょうせんしていますか。	むずかしいと思うことでもちょうせんしていますか。	自分には難しいと思うことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。	自分には難しいと思うことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか。
関わり合う力(Communication)				
相手の立場に立つて考える力	がっこうで、ともだちのきもちをかんがえてこうどうしていますか。	学校で、友だちのきもちをかんがえて行こうしていますか。	ふだんの生活の中で、相手の立場・気持ちをかんがえて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場・気持ちをかんがえて行動していますか。
思いやり	ともだちにやさしくしていますか。	友だちにやさしくしていますか。	人に思いやりの気持ちを持ってせつしていますか。	人に思いやりの気持ちを持って接していますか。
伝える力	せんせいやともだちに、いいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちにいいたいことをうまく話すことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。
傾聴	はなしあいをするとき、ともだちのはなしをしっかりときいていますか。	話し合いをするとき、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。
相談する力	いやなことがあったときに、ひとにそうだんしていますか。	いやなことがあったときに、人にそうだんしていますか。	なやんでいること、こままっていることがあった時、人に相談していますか。	悩んでいること、困っていることがあった時、人に相談していますか。
協働	クラスのもくひょうにむかって、せんせいやともだちといっしょにがんばることができますか。	クラスのもくひょうにむかって、先生や友だちといっしょにがんばることができますか。	クラス全体での目標達成や問題かい決に向かって、周りの人と協力することができますか。	クラス全体での目標達成や問題解決に向かって、周りの人と協力することができますか。
地域との関わり	がっこうでべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいとおもいますか。	学校でべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいとおもいますか。	学校などで学んだことを、地いきや社会のために役だてたいとおもいますか。	学校などで学んだことを、地域や社会のために役だてたいとおもいますか。
自律する力(Control)				
主体性	じぶんのごとはじぶんでやろうとしていますか。	自分のごとは自分でやろうとしていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。
自己肯定感	じぶんのごとがすきですか。	自分のごとがすきですか。	自分のごとが好きですか。	自分の長所・短所を含め、自分のごとを受け入れることができますか。
規範意識	ルールをまもることができますか。	ルールをまもることができますか。	学校のきそくやクラスで決めたことについて、なぜそれがよいか、なぜ守らなければいけないかをかんがえることができますか。	学校の規則やクラスで決めたことについて、なぜそれがよいか、なぜ守らなければいけないかをかんがえることができますか。

(2) 「4つのC」概況 ※4段階評価 4とてもあてはまる 3あてはまる 2あてはまらない 1まったくあてはまらない

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
見通す力 (Concept)	R5	3.25	3.14	3.09	3.01	3.13	3.11	3.01	2.96	3.02
	R6	3.26	3.13	3.05	3.03	3.14	3.11	3.00	2.93	3.01
	R7	3.26	3.11	3.04	2.96	3.12	3.08	2.98	2.95	3.01
挑戦する力 (Challenge)	R5	3.44	3.37	3.29	3.22	3.10	3.05	2.94	2.91	2.97
	R6	3.45	3.35	3.26	3.23	3.13	3.07	2.93	2.87	2.96
	R7	3.44	3.34	3.25	3.17	3.10	3.05	2.94	2.90	2.95
関わり合う力 (Communication)	R5	3.47	3.38	3.33	3.28	3.16	3.15	3.14	3.11	3.19
	R6	3.45	3.36	3.30	3.28	3.17	3.14	3.14	3.12	3.16
	R7	3.45	3.36	3.30	3.24	3.18	3.12	3.13	3.14	3.18
自律する力 (Control)	R5	3.45	3.37	3.32	3.24	3.07	3.03	3.15	3.11	3.18
	R6	3.46	3.35	3.31	3.27	3.09	3.04	3.14	3.10	3.14
	R7	3.49	3.37	3.31	3.21	3.10	3.01	3.12	3.12	3.14



	小1～4	小5・6	中1～3
見通す力	3.09	3.10	2.98
挑戦する力	3.30	3.08	2.93
関わり合う力	3.34	3.15	3.15
自律する力	3.35	3.06	3.12

4つのCの状況について
 ・小学1～4年生と小学5～中学3年生では質問紙の聞き方に違いがある中、4つの力の平均値を見ると、どれも3.0前後あり、発達段階に応じた成長を見取ることができる。

(3) 次年度以降の柏市で育む「4つの力」について

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針」の策定を受け、「柏市の学校教育が目指す子ども像」を測る指標として、これまでの4つの力の枠組みを踏襲しつつ見直しを行いました。



これまででも、そしてこれからも柏市の学校教育を通じて育みたい力です。今回の4つの力には、それぞれ3つの重点項目を設定し、大切にしたい学びの姿を示しています。子どもも大人もこれらの姿を考えながら、学校教育を通じて育んでいきます。

(4) 4つの力の活用について

**Concept
見通す力
【振り返り】**

現在、見通す力の内容項目のうち、【改善】については、小中学校9年間をとおして高まりが見られており、柏市の強みであると考えられます。

一方で、【振り返り】にやや弱いところが見受けられます。振り返る力は、次年度以降の柏市で育む4つの力のうち、「学び続ける力」に関連する項目でもあります。今後も、柏市内小中学校で一緒に指導・支援の改善について考えていきます。

- Conceptの【振り返り】の内容項目「学んだ結果、よく分かったこと、あまり分からなかったことを整理することができる」に強みが見られた学校の活動例

A小学校

本校では、教育活動全体をとおして体験活動を重視しています。

地域の方にご協力いただきながら、お礼の手紙を書いたり、体験したことから振り返ったりすることを自然と取り組むことができる環境になっています。

B中学校

本校では、授業を通して、自己の学習を調整できる生徒の育成に取り組んでいるため、振り返りを重視しています。教科の枠組みを超えて、学年ごとに力を入れて取り組んでいます。

**Communication
関わり合う力
【相談する力】**

関わり合う力の内容項目のうち、【相手の立場に立って考える力】については、小中学校9年間をとおして高まりが見られており、柏市の強みであると考えられます。

一方で、【相談する力】にやや弱いところが見受けられます。相談する力は、次年度以降の柏市で育む4つの力のうち、「自他を大切にす力」に関連する項目でもあり、今後も、柏市内小中学校ともに指導・支援の改善について考えていきます。

- Communicationの【相談する力】の内容項目「悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる」に強みが見られた学校の活動例

C小学校

本校では、誰もが安心して学べる授業づくりに取り組んでいます。

授業中は教室環境や学習環境を工夫し、児童が集まって対話することを重視していることもあり、日頃から友達や先生と相談しながら学びに向かう環境になっています。

D中学校

本校では、安全で楽しく自己実現ができる学校を目指しています。

教職員が同じフロアでいつでも生徒の近くにるようにし、積極的にコミュニケーションを図っており、生徒が相談しやすい環境づくりに努めています。

学力・学習状況調査は、子どもたちの「これからどうすればもっと伸びるか」を考えるためのヒントになると考える。柏市では、この結果をもとに、小中学校9年間の教育を見通しながら、**教師がわかりやすく教えたり、子どもが主体的に学び合って学び方について考えたり、指導と支援をハイブリッドで行い、学びと育ちを支えていく**ことをこれからも大切にしてい

令和7年度 柏市学力・学習状況調査結果報告

編集 柏市教育委員会 教育研究所

発行 令和8年3月